

平成12年4月～平成13年3月末までの会計収支決算は下記の通りとなりましたのでご報告いたします。

収入		金額		支出		金額	
繰越金	14,370,033	同窓会記念品	42,525				
同窓会費(保31期・教12期)	730,000	会報等印刷代	562,800				
同窓会費(過年度分)	5,000	会報等送料	225,680				
利息	7,480	会報発送等アルバイト料	22,000				
		文化学園創立記念式典時出張費用等	150,921				
		その他(消耗品・お礼品・切手等)	47,633				
(イ) 計	15,112,513	(ロ) 計	1,051,559				
収支差引次期繰越金 ¥14,060,954 (イ-ロ)							

1期生～14期生の卒業生の方で終年会費を納入する場合は、郵便局に備え付けの、振込み用紙をお使いになり、郵便振替でお願いいたします。口座番号は次の通りです。

◆口座番号
02756-6-16739

◆口座名
文化女子大学室蘭短期大学同窓会
尚、振込みの際には、振込み用紙の通信欄に、宛名シール下に記載の「通し番号」を必ず記入していただきますようお願いいたします。(この番号は卒業証書の番号と異なることがあります)
その他ご意見、ご質問等ございましたら、併せてご記入ください。

会計報告

毎年毎年、世界で大きなニュースがこんなにあるものかと驚きでいっぱいです。

昨年もアメリカにおいて、同時多発テロが起き世界中を震撼させました。われわれがテレビを見て

新しい国はねたまず、もっと世界が互いを分かつ合つていかなければならぬ。豊かな国はならず、貧しい国はねたまず、もっと世界が互いを分かつ合つていかなければならぬ。豊かな国はならず、貧しい国はねたまず、もっと世界が互いを分かつ合つていかなければならぬ。

近な第一歩から。次に、明るく、つとあげましよう。



同窓会 会長 下澤 和枝

世界の平和を願って



第18号
発行 平成14年3月31日
発行所 文化女子大学室蘭短期大学同窓会
室蘭市高砂町3丁目11-50
印刷所 株式会社アイワード

野本先生の「北の箱舟美術館」オープン

野本先生からのメッセージをいただきました。昨年7月15日に登別市の住宅街に私設の「野本 醇 北の箱舟美術館」がオープンしました。この美術館は、館長の鈴木喜八郎さんが自宅を改造したもので、照明・空調など



野本 醇
「北の箱舟美術館」
現在冬期休館中
登別市本町2-21-4
開館 4月6日
土日祝日開館
館長 鈴木 喜八郎
入場 無料
☎ 0143-8312788

現役の文短生や同窓生のお手伝いをいただいています。方々の力を必要としています。力を貸していただければ幸いです。我が校のコミュニケーションの場として活用出来ればと思っています。

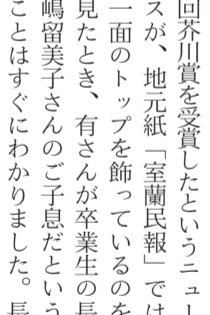
2001年文大祭



ファッションショーから



連続写真です



主事 北浦 晃

『母』としての卒業生に

1月17日の朝、室蘭・登別ゆかりの作家、長嶋有さんが第126回芥川賞を受賞したというニュースが、地元紙「室蘭民報」では一面のトップを飾っているのを見たとき、有さんが卒業生の長嶋留美子さんのご息だということはずぐにわかりました。長嶋さんは保育科の第9期生ですが、ほかの学生よりちょっとだけ年齢が多くなって、二人の男の子を出産されたという話を聞きました。

本格的な美術館並みで、小さな宝石箱のような空間です。北の風土から生まれた独特の画風に惹かれたという鈴木さんの収集した私の作品が、時代を背負って陳列されています。絵を50年描き続けられた人生稟利の至福に感謝してからの創造力となるのを実感しています。開館してから500人ほどの入館者があったと館長さんは思いますが、けなげな反響に驚いていました。今の社会で心を癒し心を豊かにする場が求められているのでしょう。

子を育てながらの若いお母さん学生でした。私の授業の「図画工作」で絵本の製作をしたとき、「私のえい本」という13場面、26ページに及ぶ切り絵による絵本を提出してくれました。ユーモアとアイデアに富んだその内容を紹介します。余裕がありませんが、その最終場面では、魔女になったお母さん(私)のマントの中から男の子が現れるのです。「ジャーン、出ました、ひろむくんとゆうくん」……。この場面が20年余の年月を超えて、新聞の紙面に再現されたような、そんな感じがしたのです。「ジャーン、出ました有くん」……。

丁度、東京に出る用事があり、銀座の書店で掲載誌の「文学界」11月号を手に入れて帰りの飛行機の中、暗い座席で読みきいたら涙が出てきた……。北海道の南岸沿いの小都市M市に母と二人で暮らす小学生の男の子が、母の生き方の細部まで観察して、それに身を丈を合わせるように自分も成長していった……。北の風土が、母の生き方に染み渡っていた。母は「猛スピードで母は」を単行本で買って読みました。

わが卒業生全員、格好いい母になるために「猛スピードで母は」を単行本で買って読みました。

川崎 徹先生の講演会 —現代人とストレス—

昨年の12月8日に、学生と卒業生のために川崎徹先生の講演会がありました。急だったこともありまして、川崎先生に習った日胆地区の1〜17期の方々に連絡をいたしました。土曜日の午前中だったにもかかわらず50名以上の卒業生の参加がありました。その後、蓬萊殿にてミニ同窓会を開催。こちらにも30名以上の参加者と先生方も多数参加してくださいました。暫しタイムスリップして昔話に花を咲かせたり、近況を報告しあって楽しい時を過ごしました。川崎先生は相変わらず若々しかったですよ。

『思いがけず講演会』

ミニ同窓会に参加して

保育科9期 小塩 良志子



昨年末、心理学の川崎先生の講演会があるということで卒業以来初めて大学を訪れた。在学当時を懐かしく思い出し、ここに2年間通っていたことを確認した。フレッシュな女子学生と机を並べながら講義を受け、当時のこと



を思い出しながらも、時の流れを感じずにはいられなかった。しかし、6名の同期生とも会うことができた。そんな中、保育科9期生には卒業アルバムがないことがわかり、手作りアルバムを作る方向に話が進んでいる。保育科9期の皆さん、ご協力を！

い、愛らしい子でみんなの人気者だった。その子が第18回芥川賞を受賞し、文壇で活躍している。受賞のニュースを聞いたときは訳もなく嬉しくてたまらなかった。新年早々の嬉しい出来事に大いに元気をもらい、今年も頑張れそう。保育科9期のアルバム作り、完成させたいものです。

附属幼稚園だより

保育科11期 高橋 ひろみ(旧姓 小田)

昭和54年の春、3年間汽車で通った高校と同じ道をまた歩くことになった。一人暮らしに憧れ、この地を離れても見たかったが、たまたま目指したものが文短にあったことから、結局は自宅生として親任せの呑気な2年間を過ごさせてもらった。

昭和54年の春、3年間汽車で通った高校と同じ道をまた歩くことになった。一人暮らしに憧れ、この地を離れても見たかったが、たまたま目指したものが文短にあったことから、結局は自宅生として親任せの呑気な2年間を過ごさせてもらった。

現在の子育てが一段落。親のまなざしは必要とするが手はいらない環境となり、もう一度勉強するつもりで毎日仕事に臨み、幼稚園にやってくることもまたこの



第26回 文化女子大学附属幼稚園運動会
教師を信じて止まない子供たちの純粋な心から少しづつ幸せをもらっているのだから。子供たちと過ごす一日一日を大切に、さあ、今日もまた保育を楽しむことにしよう。



ふれあいを楽しんでいる。若い人が持つはじけるようなエネルギーはないけれど、私だからこそできる何かを探りながら日々過ごしていきたいと思っている。まずは、元気に登園して笑顔で迎える。教師を信じて止まない子供たちの純粋な心から少しづつ幸せをもらっているのだから。子供たちと過ごす一日一日を大切に、さあ、今日もまた保育を楽しむことにしよう。

水芭蕉

保育科1期 北村 啓子



末の子が家を出た。何年も開かずの間であった六畳間の大掃除が始まった。ついでに他の部屋にも及んで一週間は、足の踏み場もなかった。捨てて捨てて捨ててしまった。ほとんどが私の洋服。30年前のものもあった。体型的にはもちろん着れるべくもなく、あー昔は私だっつて溜息をつく。子供たちのアルバムを手にして、しばし時間が止まる。こんな天使の時代があったからこそ、何年も生意気盛りに耐え子育てを放棄しなかったのだらうと、変に納得する。さて、次に困ったのが本だ。絵本と童話と画集は私の宝物。文庫本・単行本等々をどうするか。老眼になってからめっきり活字を読むのが億劫になった。古本屋に三百冊売ることにした。若いアルバイトの男の子が来て、58冊分冊を置いていった。大江も別役も五木も置いていった。「需要と供給、ですから」と訳のわからない説明。売ろうとした私も不埒だが、買わない業者も不届きである。中学生の姪に「宮部みゆき」の本を薦められて買った。今度は「猛スピードで母は」を買おう。

東京支部だより

ただいま準備中

保育科6期 佐藤 もも枝



北海道を離れ、横浜に住み着いて20年。高1と小6の息子は、すっかり「はまっこ」です。毎年夏には帰省していますが、「卒業写真」の歌詞のように、驚別駅を通過する電車から校舎を見るだけで、母校はだんだん遠くなっています。そんな時、「すみれ」で懐かしいお名前を発見、それも同窓会の東京支部を作る予定だなんて、もう電話する

「お知らせ」

○今年の住所変更・確認のはがきは同窓会名簿の巻末についていますので、切り取って送って下さい。切手は不要です。特に住所の変更の際には必ずお知らせ願います。

○第33回文大祭一般公開
平成14年10月26日(土)・27日(日)

編集後記

すみれを待っていてくれる人がいることを励みに、今年も何とかお届けする事ができました。

より多くの人たちの声を、顔をお届けしたいと思っています。今年も念願の会員名簿も配布でき、ひとくぎりがつきました。K・Shimo